

体育系大学学生の友人関係の特徴 —日常生活行動との関連性について—

粟 木 一 博

Characteristics of friendship among contemporary students in a sports science university
— Relations between friendship and daily life behavior —

AWAKI Kazuhiro

The purpose of this study is to elucidate knowledge on friendship among students at a sports science university and the characteristics of friendship behavior apparent in daily activities. We studied relations to aspects such as self-image and self-esteem, which are related to self-development in youth. As a result, we identified statistically significant correlation between a number of factors related to knowledge of friendship and public self-image.

Key words: friendship, sports science university student, self-consciousness

研究目的

これまで体育系大学に所属する学生を対象としたその友人関係の特徴に関する研究において、一般学部の大学生には見られない顕著な傾向が見出されてきた。それは、友人関係尺度(岡田1995)において一般大学生には見られなかった積極的な交友関係に関する因子が見出されたことである。スポーツ活動を日常的に実施しているという特徴を有するこれらの大学生は様々な場面において自己開示あるいは他者との係わり合いを経験することによってある特徴的な友人関係認知が形成されている可能性が示唆された(粟木, 1998)。

友人関係に対する認知や態度の深まりは自己の発達に様々な影響を及ぼすと考えられる。自分自身に意識が向く性格特性(自己意識特性)

は、他者の目に映る自分自身に注意が向きやすい傾向(公的自己意識)と自身の内面に注意が向きやすい傾向(私的自己意識)に分けて考えることができる。この公的自己意識は他者の目に自分がどのように映っているかを客観的に把握することに他ならない。つまりこれは、自己に対する認識であるとともに、他者の内面を推測することに他ならず、他者の感情への共感、自己の相対化、脱中心化が行なわれるということである。青年期までの自己発達とは同性同世代の友人関係に基づいた理想自己像と他者の視点から見た公的自己を確立し、その両者の照合の結果得られる自尊感情獲得の過程であるとされている(柏木, 1983)。この関係を模式的に図1に示した。

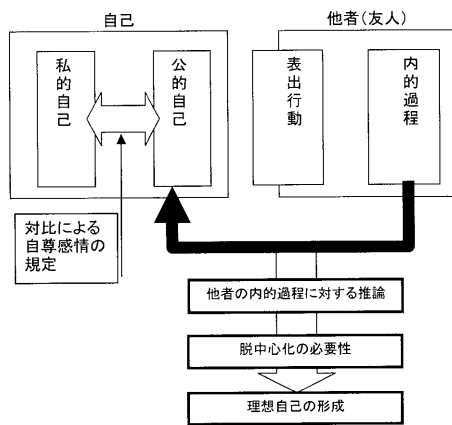


図1 自己意識と友人関係に対する認知および表出行動の関連

体育系大学に所属する学生の友人関係に対する認知構造の特徴である「積極性」、「開示」はこのモデルにおける自己確立のために有効に機能することが予想される。

そこで本研究では、日常的にスポーツ活動に取り組んでいる体育系大学に所属する学生を対象に友人関係に対する認知構造および日常的な友人との間で行なわれる表出行動の構造を明らかにするとともに、それが自己意識、自尊感情とどのような関連性を持つのかを明らかにすることを目的とする。

研究方法

調査対象：体育系4年制大学に所属する学生339名（男性216名、女性123名）を対象とする。年齢は平均20.2歳であった。

実施時期：平成18年12月の授業中に調査用紙を配布、その場で回答、回収を行なった。

調査内容：

- 1) 友人行動に関する調査：岡田（2005）の調査を参考にして友人と日常的に行なう活動66項目からなるリストを作成し、その活動を行なう頻度に関して4件法で回答するという内容であった。これには「親友評定」として親友と呼べるごく親しい友人と行な

う活動と、「グループ評定」としていつもグループで活動している友人との間で行なわれる活動の2種類の調査用紙を作成し、それぞれに評定を行なった。

- 2) 自尊感情に関する調査：Rosenberg（1965）に基づき、山本・松井・山成（1982）が邦訳翻案した個人の全体的な自尊感情の水準を測定する尺度10項目を用いた（6段階評定）。
- 3) 自意識尺度：Fenigstein, Scheier, & Buss（1975）を菅原（1984）が邦訳した自意識尺度21項目を使用した。下位尺度として公的自己意識と私的自己意識の水準を測定することが可能である（6段階評定）。
- 4) 友人関係に対する態度：岡田（1999）で作成された現代青年に特有な友人関係に関する尺度（以下「友人関係尺度」と記す）42項目を使用した。自分がどのような友人関係のとり方をするのかに関する質問から成る。岡田（1999）においては内面的な関係を避け、互いの内面に踏み込まないように関わり方を示す「自己閉鎖」、友人から自分が否定的に評価されないように気を使う関わり方を示す「自己防衛」、友人を不快にさせないように気を使う関わり方を示す「友だちへのやさしさ」、楽しく円滑な関係をとる「群れ」の4因子が抽出されている。

結果と考察

1. 項目の分析

- 1) 友人行動：親友評定、グループ評定それぞれに対してSMCを共通性の推定値とした主因子法による因子分析を実施した。固有値を基にしたスクリーテストの結果、それぞれの評定において4因子が抽出され、それぞれについてバリマックス解を求めた。質問項目、因子負荷量、因子構造を表1、表2にそれぞれ示した。表は因子負荷量の絶対値順にソートし、0.4以上の因子負荷量を示すものを太枠で囲んである。

体育系大学学生の友人関係の特徴

表1 友人行動（親友評定）の因子分析

項目番号	質問項目	F1	F2	F3	F4
51	困っているとき相談に乗る	0.698	0.181	0.103	0.070
16	喜びを分かち合う	0.689	0.166	0.173	0.009
5	自分の性格についての話をする	0.654	-0.009	-0.012	0.187
11	将来についての話をする	0.644	0.215	0.007	0.121
50	恋愛についての相談をする	0.618	0.253	0.057	0.132
7	人生観についての話をする	0.565	0.130	-0.045	0.165
21	お互いの長所の話をする	0.556	0.059	0.095	0.267
23	とりとめのない話をする	0.542	0.090	0.163	-0.044
33	携帯電話の番号を教えあう	0.536	0.077	0.224	-0.074
1	これからの生き方についての話をする	0.531	0.063	-0.100	0.157
57	悲しみを分かち合う	0.529	0.263	0.015	0.271
17	お互いの欠点の話をする	0.523	0.149	0.072	0.268
63	メールを送り合う	0.512	0.180	0.317	0.079
13	自分の趣味について話をする	0.488	0.200	0.167	0.068
3	親に言えないようなことを相談する	0.485	0.223	-0.012	0.150
27	自分の言いたいことをはっきりという	0.480	0.296	0.102	0.075
19	メールアドレスを交換し合う	0.471	0.046	0.213	-0.130
47	大学での出来事の話をする	0.471	0.163	0.306	0.106
10	ふざけあう	0.451	0.292	0.237	-0.072
65	相手が怒っているときに、なだめる	0.446	0.164	0.094	0.120
66	失敗したときに、すぐに謝る	0.437	-0.012	0.140	0.073
36	一緒に食事をしに行く	0.397	0.361	0.139	0.049
52	意見が違うときに納得するまで話し合う	0.396	0.252	0.074	0.335
9	学校での行事の話をする	0.373	0.200	0.145	0.021
29	スポーツの話をする	0.356	0.189	0.218	-0.145
39	お互いに不満に思っている点を言い合う	0.345	0.184	0.039	0.222
6	一緒にボーっとする	0.320	0.134	0.318	0.166
55	なんとなく家に集まって時を過ごす	0.221	0.674	0.090	0.070
56	一緒に外で遊ぶ	0.358	0.669	-0.029	0.109
49	お互いの家で一緒に遊ぶ	0.220	0.668	0.101	0.056
61	部屋の中でゲームをする	-0.041	0.657	0.000	0.048
60	互いの家に泊まる	0.260	0.649	0.057	0.151
54	休日に出掛ける	0.315	0.607	-0.033	0.216
28	カラオケに行く	0.086	0.551	-0.066	0.177
59	一緒にゲームセンターに行く	0.120	0.542	-0.010	0.283
32	一緒に買い物に行く	0.395	0.523	0.224	0.123
41	一緒に旅行する	0.156	0.470	-0.074	0.387
14	一緒にお酒を飲みに行く	0.265	0.458	0.134	-0.004
20	一緒に合コンに行く	0.016	0.434	0.002	0.135
62	一緒にスポーツをする	0.216	0.426	0.150	-0.056
30	送り迎えをし合う	0.211	0.389	0.113	0.227
53	一緒にお茶をしに行く	0.329	0.385	-0.029	0.375
25	電話をかけ合う	0.294	0.361	0.145	0.218
42	好きなタレントの話をする	0.248	0.350	0.114	0.164
45	自転車に乗ってフラフラする	0.136	0.340	0.154	0.310
48	一緒に部活動やサークル活動をする	-0.010	0.330	0.166	0.053
40	テレビ番組の話をする	0.171	0.300	0.169	0.054
38	教室を移動するときは一緒に行く	0.017	-0.057	0.749	0.018
2	休み時間は一緒にいる	0.017	-0.001	0.710	-0.008
31	ノートの貸し借りをする	0.083	0.172	0.700	0.126
12	試験や授業の情報交換をする	0.170	0.079	0.657	0.004
64	お昼を一緒に食べる	0.089	0.089	0.556	0.051
34	トイレに一緒に行く	0.074	0.015	0.540	0.156
15	授業の話をする	0.325	-0.017	0.529	0.038
18	先生についての話をする	0.267	0.060	0.471	0.096
35	一緒に勉強する	0.242	0.169	0.449	0.293
46	一緒に登下校する	0.067	0.256	0.361	0.173
43	自分の悩みを手紙に書いて交換する	0.134	0.008	0.088	0.732
58	日頃の出来事を手紙に書いて交換する	-0.004	0.120	0.094	0.673
44	特に用事もないのに電話で長く話をする	0.259	0.317	-0.074	0.507
22	プリクラの交換をする	0.358	0.038	0.153	0.471
8	一緒にプリクラを撮る	0.361	0.220	0.063	0.435
26	一緒にアルバイトをする	-0.007	0.271	0.070	0.362
24	アルバイトを紹介しあう	0.021	0.163	0.206	0.339
4	互いの勉強の邪魔をする	0.028	0.150	0.151	0.278
37	無理に相手を理解しようとしな	0.056	0.093	0.077	0.095
寄与		8.733	6.522	4.503	3.569
全分散に対する寄与率 (%)		13.232	9.882	6.823	5.408

表2 友人行動（グループ評定）の因子分析

項目番号	質問項目	F1	F2	F3	F4
51	困っているとき相談に乗る	0.693	0.180	0.182	0.152
16	喜びを分かち合う	0.624	0.208	0.188	0.079
57	悲しみを分かち合う	0.603	0.345	0.017	0.204
5	自分の性格についての話を	0.587	0.008	0.072	0.350
50	恋愛についての相談をする	0.565	0.314	0.165	0.248
19	メールアドレスを交換し合う	0.559	0.053	0.243	-0.205
11	将来についての話を	0.540	0.170	0.191	0.242
63	メールを送り合う	0.529	0.241	0.250	-0.064
1	これからの生き方についての話を	0.527	0.120	0.095	0.295
33	携帯電話の番号を教えあう	0.520	0.034	0.253	-0.156
23	とりとめのない話を	0.515	0.071	0.154	0.090
7	人生観についての話を	0.510	0.105	0.154	0.377
27	自分の言いたいことをはっきりという	0.493	0.193	0.068	0.221
65	相手が怒っているときに、なだめる	0.482	0.156	0.213	0.174
3	親に言えないようなことを相談する	0.472	0.244	0.162	0.322
21	お互いの長所の話をする	0.472	0.170	0.111	0.419
66	失敗したときに、すぐに謝る	0.461	0.072	0.252	-0.010
29	スポーツの話をする	0.453	0.171	0.238	-0.209
13	自分の趣味について話を	0.452	0.147	0.225	0.246
10	ふざけあう	0.431	0.136	0.347	-0.023
6	一緒にボーっとする	0.393	0.100	0.350	0.261
39	お互いに不満に思っている点を言い合う	0.367	0.173	0.024	0.345
42	好きなタレントの話をする	0.345	0.250	0.204	0.243
37	無理に相手を理解しようとし	0.101	0.073	0.065	0.089
54	休日に出掛ける	0.152	0.757	0.100	0.172
56	一緒に外で遊ぶ	0.219	0.711	0.155	0.183
60	互いの家に泊まる	0.277	0.675	0.101	0.163
49	お互いの家で一緒に遊ぶ	0.279	0.662	0.188	0.003
55	なんとなく家に集まって時を過ごす	0.245	0.660	0.146	0.146
61	部屋の中でゲームをする	-0.046	0.606	0.136	0.085
59	一緒にゲームセンターに行く	0.017	0.602	0.057	0.324
32	一緒に買い物に行く	0.240	0.598	0.252	0.271
28	カラオケに行く	0.138	0.580	-0.040	0.235
14	一緒にお酒を飲みに行く	0.314	0.511	-0.061	0.054
20	一緒に合コンに行く	0.021	0.489	-0.138	0.183
53	一緒にお茶をしに行く	0.254	0.487	0.076	0.343
41	一緒に旅行する	0.093	0.478	-0.100	0.409
62	一緒にスポーツをする	0.274	0.419	0.174	-0.148
36	一緒に食事をしに行く	0.193	0.406	0.261	0.028
48	一緒に部活動やサークル活動をする	0.081	0.395	0.056	-0.084
25	電話をかけ合う	0.304	0.348	0.095	0.287
24	アルバイトを紹介しあう	0.143	0.312	0.064	0.295
26	一緒にアルバイトをする	0.032	0.288	-0.026	0.234
38	教室を移動するときは一緒に	0.091	0.031	0.734	0.118
15	授業の話をする	0.160	-0.088	0.697	0.016
2	休み時間は一緒にいる	0.191	0.045	0.693	0.051
12	試験や授業の情報交換をする	0.245	-0.031	0.647	-0.122
34	トイレと一緒に	0.080	0.118	0.619	0.230
31	ノートの貸し借りを	0.115	0.131	0.600	0.098
18	先生についての話を	0.255	-0.020	0.585	0.086
64	お昼を一緒に食べる	0.170	0.178	0.575	0.012
47	大学での出来事の話をする	0.389	0.126	0.523	-0.025
9	学校での行事の話をする	0.278	0.045	0.506	0.008
35	一緒に勉強する	0.119	0.215	0.504	0.326
46	一緒に登下校する	0.105	0.328	0.383	0.264
40	テレビ番組の話をする	0.286	0.102	0.332	0.167
58	日頃の出来事を手紙に書いて交換する	-0.020	0.110	0.085	0.682
43	自分の悩みを手紙に書いて交換する	0.058	0.045	0.114	0.679
44	特に用事もないうちに電話で長く話を	0.125	0.309	0.004	0.582
30	送り迎えをし合う	0.153	0.436	0.049	0.461
22	プリクラの交換をする	0.270	0.050	0.017	0.437
17	お互いの欠点の話をする	0.409	0.169	0.085	0.421
8	一緒にプリクラを撮る	0.108	0.379	-0.006	0.407
52	意見が違うときに納得するまで話し合う	0.380	0.292	0.075	0.389
45	自転車に乗ってフラフラする	0.137	0.377	0.182	0.386
4	互いの勉強の邪魔をする	0.031	0.154	0.155	0.307
寄与		7.808	7.327	5.744	4.976
全分散に対する寄与率 (%)		11.830	11.101	8.703	7.539

体育系大学学生の友人関係の特徴

親友評定においては第一因子として「困っているときは相談にのる」、「喜びを分かち合う」などの友人関係の積極的な交流に関する質問項目から構成されており、「開示」因子と命名した。第二因子は「なんとなく家に集まって時を過ごす」、「一緒に外で遊ぶ」など時間のすごし方、特に遊びに関する時間の共有の仕方に関する質問項目によって構成されていることから「遊び」因子と命名した。第三因子は「教室を移動するとき是一緒に行く」、「ノートの貸し借りをする」など学生生活、特に大学の行動に関する質問項目によって構成され

ていることから「学生生活」因子と命名した。第四因子はメール、電話などに関する質問項目によって構成されていることから「コミュニケーション」因子と命名した。グループ評定についても同様の手続きで因子分析を実施した。その結果、表2からも分かる通り、いくつかの質問項目の異なりは認められるものの、親友評定とほぼ同様な因子構造が見出された。

2) 友人関係尺度：体育系大学に所属する学生の友人関係に対する認知構造を明らかにし、岡田(2005)の因子構造と比較を行なうために因子分析を行なった。42項目に

表3 友人関係尺度の因子分析

項目番号	質問項目	F1	F2	F3	F4
27	友だちの内面に土足で踏み込まないようにする	0.634	0.067	0.005	0.111
28	友だちをがっかりさせないように気をつける	0.602	0.253	0.073	0.206
26	お互いの約束をやぶらない	0.600	0.115	0.096	-0.117
29	相手にやさしくするよう心がける	0.591	0.251	0.151	0.067
14	友だちに心配をかけないように気をつける	0.546	0.100	0.052	0.199
22	相手の気持ちに気をつかう	0.532	0.127	0.092	0.169
3	友だちを傷つけないようにする	0.493	0.175	0.219	0.165
42	相手の世界に口出ししない	0.451	-0.024	-0.100	0.191
7	相手に自分の意見を押し付けないように気をつける	0.448	0.229	0.044	0.207
12	お互いのプライベートに立ち入らない	0.444	-0.013	-0.215	0.099
36	友だちに人前で恥をかかせないように気をつける	0.422	0.079	-0.130	0.317
38	相手に甘えすぎない	0.419	0.086	-0.109	-0.082
21	友だちにグチを言わないようにする	0.306	-0.043	-0.146	0.088
8	ウケるようなことをする	0.080	0.739	-0.067	-0.009
39	おもしろい話をする	0.154	0.722	0.058	-0.053
41	友達と一緒にしゃぐ	0.109	0.717	0.215	-0.118
4	冗談を言って相手を笑わせる	0.169	0.688	0.072	-0.102
16	友だちの前ではしゃぐ	-0.043	0.671	0.287	0.093
11	楽しい雰囲気になるようにふるまう	0.208	0.665	0.054	0.053
33	しらけた雰囲気にならないようにする	0.218	0.552	0.013	0.283
34	友だちの心の支えになろうとする	0.242	0.451	0.367	0.193
32	必要に応じて友だちを頼りにする	0.114	0.383	0.314	0.159
31	相手の気持ちを聞きだそうとする	-0.062	0.350	0.200	0.282
5	悩みごとを相談する	0.094	0.190	0.764	0.092
1	自分の心を打ち明けて話す	0.033	0.138	0.699	0.046
15	落ち込んだときの話を聞いてもらう	-0.018	0.253	0.658	0.122
9	本当の気持ちは話さない	0.081	-0.096	-0.626	0.286
23	浅い付き合いにとどめる	0.034	-0.229	-0.553	0.292
35	自分の内面に踏み込まないように気をつける	0.270	-0.042	-0.500	0.344
25	まじめな話題を避ける	-0.137	-0.043	-0.445	0.340
30	自分が落ち込んだ姿を友だちに見せない	0.254	0.114	-0.416	0.142
24	友だちから傷つけられないようにふるまう	0.206	0.000	-0.038	0.608
18	友だちから無神経な人間だと思われないよう気をつける	0.322	0.170	0.018	0.571
10	友だちからバカにされないように気をつける	0.170	-0.039	-0.201	0.537
6	友だちから「つまらない人」と思われないよう気をつける	0.294	0.274	0.082	0.533
40	友だちと意見が対立しないよう気をつける	0.269	0.061	-0.180	0.529
13	仲間の前で恥をかかないように気をつける	0.282	-0.036	-0.063	0.490
2	友達からどう見られているか気にする	0.176	0.095	0.256	0.462
19	友だちと同じ持ち物を持つ	-0.145	0.034	0.084	0.428
20	相手の言うことに口をはさまない	0.326	0.014	-0.110	0.401
37	まじめな話題になると冗談でごまかす	-0.085	0.087	-0.276	0.399
17	あたりさわりのない会話ですませる	0.106	-0.084	-0.184	0.341
寄与		4.350	4.327	3.725	3.701
全分散に対する寄与率 (%)		10.357	10.302	8.869	8.812

対して SMC を共通性の推定値とした主因子法による因子分析を実施した。固有値に基づくスクリーテストの結果、4 因子を抽出した。質問項目、因子負荷量、因子構造を表 3 に示した。表は因子負荷量の絶対値順にソートし、0.4 以上の因子負荷量を示すものを太枠で囲んである。

第一因子は「友だちの内面に土足で踏み込まないようにする」、「友だちをがっかりさせないように気をつける」など友人に対する気遣いとともに関係を回避する内容の質問項目によって構成されており、「侵入回避」因子と命名した。第二因子は「ウケるようなことをする」、「おもしろい話をする」など表面的な楽しい関係を構築する態度を表す質問項目により構成されており、「軽躁的關係」因子と命名した。第三因子は「悩み事を相談する」、「自分の心を打ち明けて話す」など自己の内面的な開示や積極的な友人との係わり合いに関する項目から構成されていることから「自己開示」因子と命名した。この因子にはこの他、「本当の気持ちは話さない」、「浅い付き合いにとどめる」などの項目も含まれているがこれらはすべて因子負荷量が負

の値を示していることから先述の「自己開示」とした。第四因子は「友だちから傷つけられないようにふるまう」、「友だちから無神経な人間だと思われないように気をつける」など友人関係において傷つけられることに対する防衛的な内容を示す質問項目によって構成されており、「傷つけられ回避」因子と命名した。

岡田 (2005) においては本研究とほぼ同じ因子構造が見られているが、第三因子にあった「自己開示」因子だけは本研究結果とは因子負荷量の符合が正反対の結果が得られており「自己閉鎖」因子と命名されている。これは、体育系大学生を対象とした友人関係の研究 (粟木, 1998, 2005) において共通して見られる積極的な交友関係に関する態度を示す形となった。

2. 友人関係尺度と友人行動尺度の相関

友人関係尺度と友人行動尺度 (親友評定およびグループ評定) それぞれについて因子分析によって求められた各因子の因子得点を求め、それをもとに各因子間の相関係数を求めた。表 4 に友人関係尺度と親友評定およびグループ評定との相関係数行列を示した。

表 4 友人関係尺度と友人行動との間の相関係数

	友人行動 (親友評定)			
	開示	遊び	学生生活	コミュニケーション
気遣い	0.228 *	0.005	0.154	0.078
軽躁關係	0.330 *	0.222 *	0.308 *	0.141
自己開示	0.424 *	0.132	0.206 *	0.129
傷つき回避	0.038	0.083	0.110	0.111

	友人行動 (グループ評定)			
	開示	遊び	学生生活	コミュニケーション
気遣い	0.082	0.032	0.097	0.046
軽躁關係	0.330 *	0.219 *	0.236 *	0.117
自己開示	0.454 *	0.172	0.227 *	0.193 *
傷つき回避	0.012	0.165	0.118	0.090

* : $p < .01$

この分析の結果、親友評定では「開示」因子と友人関係尺度の「気遣い」、「軽躁的關係」および「自己開示」因子との間に、「学生生活」因子と友人関係尺度の「軽躁的關係」因子との間に有意な相関が見られた。また、グループ評定では「開示」因子と友人関係尺度の「軽躁的關係」および「自己開示」因子との間に有意な相関が見られた。これは、友人関係の「開示」に関する実際の行動内容(例えば「相談にのる」、「話をする」など)と認知や態度との間に対応が見られることを示している。また、「軽躁的關係」と「開示」との間に有意な相関が見られたことについてはどちらも「楽しい雰囲気を作るために話をする」という内容の項目が含まれていることから有意な相関関係が見出されたものと考えることができる。しかし、その他ほとんどの項目に関して有意な相関が見出されなかった。これは、友人関係尺度において測定された友人関係に対する認知と行動との間に明確な対応が成立していないことを示している。つまり、ある行動とその行動の解釈、あるいは理由づけというものが「開示」に関するもの以外は必ずしも一致していないことを示している。

3. 自己意識と友人関係尺度、友人行動尺度との関連性

友人関係尺度の各因子得点と自己意識の私的・公的・公的自己意識、各々の得点との間の相関係数を求め、表5にその相関係数行列を示した。また、友人行動尺度と自己意識得点との間の相関係数を求め、表6にその相関係数行列を示した。

表5 友人関係尺度と自己意識得点との相関係数

	自己意識	
	公的自己意識	私的自己意識
気遣い	0.339 *	0.462 *
軽躁關係	0.279 *	0.289 *
自己開示	0.053	0.069
傷つき回避	0.520 *	0.160

* : p < .01

表6 友人行動と自己意識得点との相関係数

親友評定	自己意識	
	公的自己意識	私的自己意識
開示	0.120	0.219
遊び	0.055	0.020
学生生活	0.055	0.095
コミュニケーション	0.014	0.024

グループ評定	自己意識	
	公的自己意識	私的自己意識
開示	-0.127	-0.210
遊び	0.019	-0.006
学生生活	-0.127	-0.114
コミュニケーション	0.038	0.024

* : p < .01

公的・私的自己意識と友人関係尺度の「気遣い」因子および「傷つき回避」因子との間に有意な相関が見られ、私的自己意識においては「気遣い」因子との間にのみ有意な相関が見られた。これに対して、友人行動尺度と自己意識尺度との間に有意な相関関係は見出されなかった。

この結果は自己の相対化、脱中心化と密接な関係にある「他者の内面の推測」つまり公的・私的自己意識が実際に目にすることができる表出行動(友人行動)ではなく、友人関係に対する認知に強く関連していることを示している。

4. 自尊感情と各尺度との相関係数

自尊感情得点と友人関係および友人行動の各因子得点との間の相関係数を求めた。その結果を表7に示した。

表7 友人関係各尺度と自尊感情得点との相関係数

		自尊感情得点
友人関係尺度	気遣い	0.071
	軽躁關係	0.164 *
	自己開示	0.106
	傷つき回避	-0.157 *
友人行動 (親友評定)	開示	-0.019
	遊び	-0.111
	学生生活	-0.007
	コミュニケーション	0.036
友人行動 (グループ評定)	開示	-0.015
	遊び	-0.077
	学生生活	0.055
	コミュニケーション	0.004

* : p < .05

この結果、友人関係尺度の「軽躁関係」、「傷つき回避」それぞれの因子と自尊感情得点との間に5%水準で有意な相関が見られた。これは、公的自己意識得点との相関関係と共通した結果であり、公的自己意識の自己発達への関与を示唆する結果となった。

5. まとめ

上記の結果から当初予測されたとおり、公的自己意識が日常的な表出行動よりも友人関係に対する認知、内的な過程との関連性が深いことが明らかにされた。しかし、友人関係の認知構造の中でも積極的な他者との関わり合いを示す「自己開示」因子得点と自尊感情との間に有意な相関関係は見られなかった(岡田(2005)では、「自己閉鎖」因子と自尊感情との間に有意な負の相関を見出している)。これは、この因子が体育系大学の学生に特徴的なこの因子が自己確立のための有効な特性として機能しているとは単純に評価できないことを示しているのではないかと推察される。

Rosenberg, M. 1965 Society and the adolescent self-image. Princeton : Princeton University Press.

菅原健介 1984 自己意識尺度 Self-consciousness scale 日本語版作成の試み 心理学研究, 55, 184-188

山本真理子・松井 豊・山成由紀子 1982 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68

参考文献

- 粟木一博 1998 体育系大学における学生の友人関係の特徴 東北体育学研究 15, 1, 1-8.
- 粟木一博 2005 体育系大学生の友人関係とスポーツマン的自我同一性との関連性について 仙台大学紀要 37, 1, 24-29
- Feningstein, A., Scheier, M. F., & Buss, A. H. 1975 Public and private self-consciousness : Assessment and theory. Journal of Consulting and Clinical Psychology, 43, 522-527.
- 柏木恵子 1983 子どもの「自己」の発達 東京大学出版会
- 岡田 努 1995 現代大学生の友人関係と自己像・友人像に関する考察 教育心理学研究, 43, 354-363.
- 岡田 努 1999 現代青年に特有な友人関係の取り方と自己愛傾向の関連について 立教大学教職研究, 9, 21-31.
- 岡田 努 2005 現代青年の友人関係・ライフイベントと自己の発達に関する研究 金沢大学文学部論集, 25, 15-32.